

公益社団法人 日本天文学会

2020年度事業報告書

I. 出版物の刊行(定款第2章第5条2項に該当の事業)

1. 欧文研究報告 (Publications of the Astronomical Society of Japan) : 第72巻2号-6号、増刊特集号73巻SP1号、第73巻1号の計6回刊行。総論文数159編(うちLetter 9、VERA特集 10、光赤外線天文学大学間連携特集 4、分子雲衝突特集 21)、総頁数2,171頁、発行部数100部、偶数月25日発行。
2. 天文月報 : 第113巻5号-12号、第114巻1号-4号を刊行。総頁数1,024頁、総目次8頁、発行部数3,400部、毎月20日発行。
3. 年会予稿集 : 2020年秋季年会発行総頁数220頁、380部印刷。2021年春季年会発行総頁数282頁、380部印刷。
4. ジュニアセッション予稿集 : 春季年会予稿集64頁、300部印刷。
5. 「シリーズ現代の天文学」第16巻第2版を刊行した。

II. 年会の開催(定款第2章第5条1項に該当の事業)

1. 2020年秋季年会

2020年9月8日(火)から10日(木)の3日間、弘前大学文京町キャンパス(青森県弘前市)にて開催予定であったが、COVID-19感染拡大の影響を考慮し、完全オンラインでの開催とした。講演は口頭講演のみで行い、426件の講演があった。参加登録人数は会員1,028名、非会員94名の計1,122名であった。本年会では、通常講演のほかに、特別セッション3件(天文教育フォーラム、国立天文台-現状と今後-そのII、はやぶさ2ミッションの挑戦・成果・今後の展開)、企画セッション1件、林忠四郎賞・研究奨励賞・欧文研究報告論文賞受賞記念講演もオンラインで開催した。初のオンライン開催となったが、大きな問題なく開催することができた。記者会見はオンラインで開催したが、展示コーナー、懇親会、保育室の開設、公開講演会は中止とした。

2. 2021年春季年会

2021年3月16日(火)から19日(金)の4日間、東京工業大学大岡山キャンパス(東京都目黒区)にて開催予定であったが、COVID-19感染拡大の影響を考慮し、完全オンラインでの開催とした。講演件数は口頭講演が496件、ポスター講演が79件で、合計575件の講演があった。年会参加登録人数は会員1,151名、非会員152名の計1,303名であった。本年会では、通常講演のほかに、特別セッション3件(天文教育フォーラム、X線分光撮像衛星-XRISM-、日本学術会議と日本天文学会-よりよい連携のために-)、企画セッション3件、林忠四郎賞・欧文研究報告論文賞受賞記念講演、ジュニアセッションもオンラインで開催した。ジュニアセッションの講演数は50件であり、セッションには推計300名以上の参加があった。記者会見はオンラインで開催したが、展示コーナー、保育室の開設、懇親会は中止とした。また、公開講演会は3月20日(土)にオンラインで開催し、約350名の参加があった。

III. 代議員総会・理事会・会員全体集会及び監査(定款第6-8章第36-57条に該当の事業)

1. 代議員総会

日時 : 2020年6月7日(日) 13:00~17:00

場所 : 筑波大学筑波キャンパス 計算科学研究センター会議室C(つくば市天王台)

議長 : 梅村 雅之(議事録は学会ホームページに掲載)

日 時：2020年9月9日（水）12:00～13:00
場 所：弘前大学（オンライン開催）
議 長：梅村 雅之（議事録は学会ホームページに掲載）

日 時：2020年10月20日（火）12:00～13:00
場 所：日本天文学会事務所（オンライン開催）
議 長：梅村 雅之（議事録は学会ホームページに掲載）

日 時：2020年12月2日（水）12:00～13:20
場 所：日本天文学会事務所（オンライン開催）
議 長：梅村 雅之（議事録は学会ホームページに掲載）

日 時：2021年1月11日（月）13:00～18:30
場 所：日本天文学会事務所（オンライン開催）
議 長：梅村 雅之（議事録は学会ホームページに掲載）

日 時：2021年3月19日（金）11:40～13:00
場 所：日本天文学会事務所（オンライン開催）
議 長：梅村 雅之（議事録は学会ホームページに掲載）

2. 理事会

議決日：2020年4月30日（木）
方 法：メールによる電磁的決議
議 長：梅村 雅之（議事録は学会ホームページに掲載）

日 時：2020年5月13日（土）13:00～17:00
場 所：筑波大学筑波キャンパス 計算科学研究センター会議室C（つくば市天王台）
議 長：梅村 雅之（議事録は学会ホームページに掲載）

議決日：2020年8月21日（金）
方 法：メールによる電磁的決議
議 長：梅村 雅之（議事録は学会ホームページに掲載）

日 時：2020年9月7日（月）16:00～18:00
場 所：弘前大学（オンライン開催）
議 長：梅村 雅之（議事録は学会ホームページに掲載）

議決日：2020年10月9日（金）
方 法：メールによる電磁的決議
議 長：梅村 雅之（議事録は学会ホームページに掲載）

日 時：2020年12月26日（土）13:00～16:00
場 所：日本天文学会事務所（オンライン開催）
議 長：梅村 雅之（議事録は学会ホームページに掲載）

日 時：2021年3月15日（月）16:00～18:00
場 所：日本天文学会事務所（オンライン開催）
議 長：梅村 雅之（議事録は学会ホームページに掲載）

3. 会員全体集会

日 時：2020年9月9日（水）16:00～17:00

場 所：弘前大学（オンライン開催）

司 会：鈴木 建

日 時：2021年3月18日（木）16:30～18:10

場 所：東京工業大学（オンライン開催）

司 会：鈴木 建

4. 公益社団法人2019年度監査

日 時：2020年5月14日（木）13:30～15:30

場 所：国立天文台事務所（オンライン開催）

出席者：大石雅寿、関井隆、鹿野良平、早野裕、鈴木建、佐藤良信事務長、亀井久治公認会計士（オブザーバー）

5. その他、日本学術会議会員非任命問題に関する声明発出の検討のため、以下の代議員懇談会を開催し、意見交換を行った。

日 時：2020年10月12日（月）13:00～15:00

場 所：オンライン開催

議事メモは会員のみ公開されている。

日 時：2020年11月2日（月）12:00～13:00

場 所：オンライン開催

議事メモは会員のみ公開されている。

IV. 委員会など（「日本天文学会委員会等に関する細則」に準拠）

本年度は以下の22の委員会と1の顧問において構成メンバー（任期2年の2年目）により各種活動が行なわれた。

◇ 選挙管理委員会

会長候補者（任期：2021年度～2022年度の2年間）の選挙を定款第17条および会長・副会長・理事・監事選考細則に基づき行った。被推薦者が1名のみであった為、細則に従いその1名を会長候補者とした。以上の選挙結果を天文月報113巻(2020)12月号において報告した。第6期代議員の退会（2020年11月24日付）により欠員が生じた為、日本天文学会定款第34条の規定に基づき、同日付けで欠員補充の手続きを行った。この経緯を天文月報114巻(2021)1月号において報告した。

◇ 推薦委員会

本年度は代議員選挙が行われない年度であったので、活動は無かった。

◇ 欧文研究報告編集委員会

2020年度は、183編の論文が投稿され編集委員が分担して査読を行った。通常号を6号、増刊特集号を1号、合計7号発行し、132編・2,001頁を掲載した。特集企画として、通常号にはVERA特集と光赤外線天文学大学間連携特集、増刊号には分子雲衝突特集を掲載した。編集委員会議を2020年12月9日にオンラインで開催し、現在の刊行状況などについて情報共有に加え、紙

版の扱い、投稿の手引き改訂、新規特集企画などについて検討を行った。また、編集顧問と共にメールでの議論も継続的に行った。

◇ 欧文研究報告編集顧問

編集顧問会議を2020年12月9日にオンラインで開催し、現在の刊行状況などについて情報共有に加え、紙版の扱い、投稿の手引き改訂、新規特集企画などについて検討を行った。また、編集委員会と共にメールでの議論も継続的に行った。

◇ 天文月報編集委員会

月に一度、zoom会議システムを用いて編集会議を開催し、天文月報の編集作業を行った。COVID-19影響下の社会貢献として、オンライン版の最新号公開日を早め、また、会員及び購読者に閲覧を制限していた記事すべてを制限解除した(継続中)。昨年更新したTeX用テンプレートに沿って、Word用テンプレートも更新した。内容面では4つの特集(野辺山レガシー、ニュートリノ天文学、SPICA、Z45)を組んだほか、2020年ノーベル物理学賞を受賞したペンローズ、ゲンツェル、ゲズの3氏の功績についてASTRO NEWSで紹介し、またゲンツェル、ゲズ両氏の受賞理由となった研究内容についてSKYLIGHTで掘り下げ、受賞者を知る天文学者にしか書けない独自の解説記事を掲載した。シリーズでは海部宣男氏のロングインタビューを13回に渡って掲載し、海部氏の天文学の発展への大きな貢献を再確認し、将来に向けたビジョンを共有した。

◇ 年会実行委員会

秋季年会(2020年9月8日~10日・オンライン)および春季年会(2021年3月16日~19日・オンライン)を開催した。両年会の準備にあたっては、2020年7月1日および2021年1月12日に、オンラインにて年会実行委員会およびプログラム編成会議を開催した。

◇ 天文教育委員会

春季及び秋季年会開催時に天文教育フォーラム(日本天文教育普及研究会と共催)を開催した。講師紹介プログラムは本年度6件依頼があり、合計9名の会員を紹介し、5件が成立した。監修者紹介プログラムを新規に立ち上げ、本年度2件依頼があり、合計2名の会員を紹介し、2件が成立した。天文教育に関する各種協力要請に積極的に対応した。

◇ ネットワーク委員会

日本天文学会ウェブサイト制作事業を実施した。本年度は、各委員会との連携のもと、新ウェブサイト設計に基づくウェブサイトの構築、ウェブサーバの設計と構築、コンテンツの整備、英語サイトの拡充を行い、2020年12月に新ウェブサイトを公開した。並行して、ウェブサーバの保守計画と仕様書の策定、外部企業との保守契約、及びサーバの保守・運用を行った。また、通常の業務として学会が運用するメーリングリスト等の維持管理を行った。

◇ 林忠四郎賞選考委員会

天文月報2020年9月号並びにtennetで、林忠四郎賞受賞候補者の推薦と欧文研究報告論文賞候補論文の推薦を11月6日締切で会員に依頼した。11月29日に選考委員会を開催し、林忠四郎賞候補1件、欧文研究報告論文賞候補論文2篇を選出し、2021年1月11日に開催された代議員総会に推薦した。

◇ 研究奨励賞選考委員会

天文月報2020年9月号並びにtennetで第32回研究奨励賞候補者の推薦を会員に依頼した。2020年12月1日に選考委員会をオンラインで開催し、候補者を選出した。2021年1月11日に開催された代議員総会に推薦したが決定が持ち越しとなったため、その後も推薦作業を継続した。

◇ 早川幸男基金選考委員会

若手海外学術研究援助の募集・選考を、第109回から112回までの4回実施した。応募13件（前年64件）のうち、10件が選考中に応募を取り下げ、残る3件から2件を採択したが2件ともに採択後に辞退した（前年の採択は25件）。採択率は67%で、採択額は469,333円（前年6,401,151円）であったが、新型コロナウイルス感染症の拡大により海外渡航が困難な状況になったため、支給額は0円であった。

◇ 国内研修支援金選考委員会

- ・内地留学奨学金から国内研修支援金への名称変更のお知らせ：2019年9月12日の代議員総会で承認された「内地留学奨学金」から「国内研修支援金」の名称変更のお知らせを天文月報2020年7月号に掲載した。
- ・国内研修支援金受給者の決定：天文月報2020年7月号並びにtennetで国内研修支援金受給者の募集を行った（旧名称の内地留学奨学金も併称）。2件の応募があり、委員間のメーリングリスト上で内容を審査した後、2名の支援金受給者を決定した。総額は250,000円である。

◇ 天体発見賞選考委員会

天文月報2020年9月号で（第20回）天文功労賞候補者の推薦を会員に依頼したが、推薦件数は0件であった。2020年12月30日にオンライン開催された選考委員会で、天体発見賞7氏17件、天体発見功労賞2氏2件の候補を選出し、2021年1月の代議員総会に推薦した。また、天文功労賞（長期部門）1氏1件、天文功労賞（短期部門）3氏1件を候補として推薦したが、選考委員会の中で推薦された後に推薦文が用意されたため、天文功労賞（長期・短期）については、改めて選考委員会を実施した後に、2021年6月の代議員総会で審議することになった。これは、天文学会の会員であれば選考委員も推薦できるが、推薦文が届いていない状況で推薦すべき人物がいた場合、選考委員が予め推薦文を用意して選考委員会に臨むのが健全と言えるとの指摘があったための措置となった。

◇ 日本天文遺産選考委員会

天文月報2020年9月号、tennet、および学会webページにおいて、日本天文遺産（第3回）の推薦を会員に依頼した。2020年10月9日と26日にネットワーク会議による選考委員会を開催し、3件の候補を選出した。それぞれについて現地調査および所有者/管理者の意向確認を行い、それら3件を2021年1月11日に開催された代議員総会に推薦した。

◇ 天文教育普及賞選考委員会

COVID-19影響下により延期となっていた第二回天文教育普及賞の表彰を、1件については2020年10月19日に会長・選考委員長が訪問する形で、他の1件については事前に賞状・副賞を送付後2020年10月22日に会長から電話する形で実施した。また第三回天文教育普及賞候補の選考を行った。天文月報・tennetを通じて9月末締切で推薦を依頼、昨年度までの推薦分4件を含め14件（個人6・団体8）の推薦があった。2020年10月21日にzoomにて全員出席の下、選考委員会を開催、2件（個人2）を授賞候補とすることを決定した。2021年1月11日に開催された代議員総会で2件とも授賞が決まり、2021年3月18日に春季年会に先立つ記者発表で発表された。表彰式は事前に賞状・盾を送付後、オンライン形式で2021年3月26日に副会長の司会の下、会長が表彰する形で実施した。

◇ 天文教材委員会

- ・年度予定では教材の試作および対面での使用による調査を予定していたが、COVID-19の流行による対面イベントの中止・オンライン化により対応が困難になり、一部教育委員の周囲での調査

が行われた。また、それにともない、当初予定していた天文教育委員会との連携による教材に関する天文教育フォーラムは見送った。

- ・教材委員会が今期で終了するのに伴い、引継ぎ内容を精査した。また、主に天文教育委員長との間で引継ぎに関する協議を行った。来期に現委員長の玉澤が教育委員会のオブザーバーとして参加することにより重要な事項は教育委員会その他で対応するように設定した。

◇ ジュニアセッション実行委員会

2021年春季年会（東京工業大学・オンライン開催）にて第23回ジュニアセッションを開催した。2021年1月26日の予稿集提出締め切りを受けて、2月11日にプログラム編成会議をオンライン（zoom）会議にて実施したほか、随時各委員、世話人がメールで連絡を取りつつ運営に関する議論・調整・準備作業を行った。タイからの発表6件を含め、合計50件の発表（口頭およびポスター）申込があった。発表者（生徒）はのべ185名であった。予稿集を編集し、発行した。発表者には予稿集と参加証を送付し、その他の参加者はジュニアセッションHPからPDFで閲覧することとした。3月20日に行われたジュニアセッション口頭発表は、技術トラブル回避のため事前収録した発表に続いて質疑応答を行う形式で実施した。ポスターはジュニアセッションHPから公開し、フォームから投稿されたコメントを発表者に送付した。

◇ 男女共同参画委員会

例年開催されている「女子中高生夏の学校」はCOVID-19の影響で完全オンライン開催となった（夏学オンライン2020）。この中の企画の一つキャリア座談会の担当キャリアサポーターとして参加した。主催団体の「男女共同参画学協会連絡会」には、オブザーバー学会として引き続き在籍した。2019年11月に三鷹で開催されたIAUシンポ“Astronomy for Equity, Diversity and Inclusion – a roadmap to action within the framework of the IAU 100th Anniversary”で紹介した天文学会のアンケート結果を収録として投稿した。同内容は天文月報掲載に向けて執筆中である。また、キャリア支援委員会委員および天文学会代議員推薦委員会委員の推薦を行った。

◇ 衛星設計コンテスト推進委員会

主催団体の一つとして、第28回衛星設計コンテストを実施した。59作品（設計の部：7件、アイデアの部：25件、ジュニアの部：27件）の応募があった。一次審査通過で、14作品（設計の部3作品、アイデアの部4作品、ジュニアの部7作品）が表彰候補作品に選ばれた。2020年10月31日（土）に、最終審査会（オンライン）が開催され、各賞が決定された。

◇ 全国同時七夕講演会実施委員会

2020年度はCOVID-19感染拡大が続く中、従来通りの対面形式の講演会の実施が困難な状況であったため、オンライン形式の講演会の登録ができるよう登録フォームを改修し、5月22日から全国同時七夕講演会のWebページ上で講演会の登録受け付けを開始した。また、例年通り天文教育普及研究会の共催および日本学術会議の後援を取得した。7月7日の七夕の日や、伝統的七夕の日（本年度は8月25日）を中心とした6月下旬～8月の間に32件の講演会（うち20件はオンライン開催のみ、残りはハイブリッド開催）が実施された。これらのうち24講演会から参加者の報告があり、当日参加者数と9月末までの講演会の録画再生回数の合計は11519回であった。その他、天文学会のWebサーバー移転に伴い、11-12月にかけてWebページや講演会情報の登録システムの移設・改修を実施した。

◇ キャリア支援委員会

これまでのキャリア支援活動は、年会開催時に対面で行うものが主であったが、秋季年会のオンライン開催への変更を機に、オンラインでのキャリア支援活動に切り替えた。具体的には、形式ばらないスタイルで情報交換を行うキャリアカフェを4回、天文学分野から巣立ち、社会のさまざま

まな分野で活躍されている方との懇談会を1回、それぞれ zoom ミーティングを用いて実施した。いずれもたいへん好評であっただけでなく、委員の発想を超える意見もよせられ、以降の活動の参考となった。2017年から運用を開始したウェブサイト「天文学と社会を繋ぐ職種の人材公募情報」でも引き続き天文学と社会をつなげる職種の公募情報を収集し、2020年には50件の情報を発信した。2020年度を振り返ると、2019年度までと同様、キャリア支援活動の大部分が少数の委員への負荷によって成立しているものばかりであり、今後、この点を改める必要がある。

◇ コンプライアンス委員会

本年度は、会長または代議員総会からコンプライアンスに関わる事案の諮問がなかったため、本委員会は開催されなかった。

◇ インターネット天文学辞典編集委員会

「インターネット天文学辞典」 (<http://astro-dic.jp/>) の更新・改良・維持運用を行っている。2021年3月20日時点での登録用語数は3,169用語である。2020年8月31日、11月16日にオンラインにて編集会議を開催した。編集委員は主にメールにて連絡を取り合い、日常的に改訂・更新作業を分業している。この1年間での内容更新数は208回である。一方、制作委員による会議を毎月1回行い、アクセス解析やコンテンツの改良等を行ってきた。2020年6月には利用者アンケート等を実施し、利用者の意見を反映するために、編集委員の増員、有用な諸データ表の追加、QRコード付きカードの配布、外国語のカタカナ表記の方針と例の明示等を実施するとともに、利用者からのフィードバック機能の強化を予定している。小・中学校推奨レベルの用語へのアクセスも増えている。総アクセス数は年々増加傾向にあり、最大で月約30万アクセス程度である。

V. 各賞の授与(定款第2章第5条7項に該当の事業)

2020年度日本天文学会各賞は、2021年1月11日に開催された代議員総会で以下のように決定した。なお2020年春季年会中止にともない、2019年度日本天文遺産の発表も2020年度中に行われたため、日本天文遺産は2ヶ年分を掲載している。また、研究奨励賞と天文功労賞は2021年度中に決定されることとなったため、以下には掲載されていない。

◇ 日本天文遺産 (2019年度3件、2020年度3件)

2019年度

- ・キトラ古墳天井壁画
- ・明治20年皆既日食観測地及び観測日食碑
- ・6mミリ波電波望遠鏡

2020年度

- ・仙台藩天文学器機
- ・臨時緯度観測所眼視天頂儀及び関連建築物
- ・商船学校天体観測所

◇ 天文教育普及賞 (2氏)

- ・三島 和久 (みしま かずひさ) 氏
人工天体観測の市民向け予報を中心とした天文普及活動
- ・柴田 晋平 (しばた しんぺい) 氏
「星のソムリエ」制度の創設と人材育成循環による天文普及への貢献

- ◇ 林 忠四郎賞 (1 氏)
本間希樹 (ほんま まれき) 氏
国立天文台・教授
研究の表題「超長基線電波干渉計に基づく銀河系構造の研究と巨大ブラックホール・シャドウ
撮像への貢献」

- ◇ 欧文研究報告論文賞 (2 編)
 - ・論文題目 : Cosmology from cosmic shear power spectra with Subaru Hyper Suprime-Cam first-year data
著者 : Chiaki Hikage et al.
出版年等 : Vol. 71, No. 2, article id. 43 (2019)
 - ・論文題目 : Mass constraint for a planet in a protoplanetary disk from the gap width
著者 : Kazuhiro D. Kanagawa et al.
出版年等 : Vol. 68, No. 3, article id. 43 (2016)

- ◇ 研究奨励賞
(発表は 2021 年度内に行う。)

- ◇ 天体発見賞 (7 氏、17 件)
 - ・板垣 公一 (いたがき こういち) 氏 11 件
超新星 2020ad の発見、超新星 2020ue の発見、超新星 2020bij の発見、超新星 2020bio の発見、
超新星 2020cui の発見、超新星 2020ekk の発見、超新星 2020gdw の発見、超新星 20201kb の発見、
超新星 2020nvn の発見、超新星 2020uxz の発見、超新星 2020abgq の発見
 - ・岩本 雅之 (いわもと まさゆき) 氏 1 件
彗星 C/2020 A2 (Iwamoto) の発見
 - ・山本 稔 (やまもとみのる) 氏 1 件
新星 V6566 Sgr の発見
 - ・西村 栄男 (にしむら ひでお) 氏 1 件
新星 V670 Ser の発見
 - ・藤川 繁久 (ふじかわ しげひさ) 氏 1 件
新星 V6568 Sgr の発見
 - ・小嶋 正 (こじま ただし) 氏 1 件
新星 V1708 Sco の発見
 - ・上田 清二 (うえだ せいじ) 氏 1 件
新星 V1112 Per の発見

- ◇ 天体発見功労賞 (2 氏、2 件)
 - ・櫻井 幸夫 (さくらい ゆきお) 氏 1 件
新星 V6566 Sgr の独立発見
 - ・西村 栄男 (にしむら ひでお) 氏 1 件
新星 V1708 Sco の独立発見

- ◇ 天文功労賞
(発表は 2021 年度内に行う。)

VI. 助成金(定款第2章第5条5、7、9項に該当の事業)

- ◇ 早川幸男基金：

若手天文研究者の海外での研究活動のための渡航・滞在費の補助として早川幸男基金選考委員会の選定に従い総額約47万円の援助を行なう予定であったが、COVID-19の影響で援助予定の海外渡航が全て中止となったので、今年度は援助を行わなかった。(応募13件(うち10件は選考中に辞退)、採択2件(うち2件辞退)、採択率67%)
- ◇ 学術交流費(学生の年会参加旅費補助)：

COVID-19の影響により年会がすべてオンライン開催となったため補助金の支給はなかった。
- ◇ 国内研修支援金：

応募者2名から2名の奨学生(総額25万円の支給)を決定した。また、2019年度に決定し2020年度に研修を行った奨学生1名への支援金(11万6千円)は、2021年度内に支給予定である。

VII. 後援事業等(定款第2章第5条8項に該当の事業)

国際・国内シンポジウムなどの後援6件、協賛8件を決定した。

承諾日	実施月		事業名	宛先(代表者)
2020/4/13	2020/7	後援	青少年のための科学の祭典2020	日本科学技術振興財団
2020/6/5	2020/10	協賛	AAPPS-DPP2020	アジア太平洋物理学会連合 プラズマ物理分科会
2020/6/18	2020/8	後援	第34回天文教育普及研究会	日本天文教育普及研究会
2020/6/26	2020/9	協賛	第38回レーザセンシングシンポジウム	レーザセンシング学会
2020/7/6	2020/9	後援	第18回高校生・高専生科学技術チャレンジ	朝日新聞
2020/7/6	2020/9	協賛	第48回可視化情報シンポジウム	可視化情報学会
2020/8/4	2020/10	協賛	第64回宇宙科学技術連合会講演会	日本航空宇宙学会
2020/9/15	2020/10	後援	2020年度「三鷹・星と宇宙の日」	自然科学研究機構国立天文台
2020/10/2	2021/3	後援	特別展「アインシュタイン」	読売新聞
2020/11/2	2021/1	協賛	第47回冬季講習会「光学デバイス×コンピュータショナル技術で拓く先端イメージング/センシング」	日本光学会
2020/12/16	2021/6	協賛	日本地球惑星科学連合2021年大会	日本地球惑星科学連合
2021/1/27	2021/6	協賛	第46回光学シンポジウム	日本光学会
2021/2/26	2021/9	協賛	日本流体力学会 年会2021	日本流体力学会
2021/3/30	2021/7	後援	第11回高校生天文活動発表会	高校生天文活動発表会実行委員会

Ⅷ. 外部の各賞・研究助成等への推薦(定款第2章第5条7項に該当の事業)

外部の各種の賞および研究助成に対し、天文月報・学会ホームページで候補者を広く募り、会長・副会長が中心となって選考した上で学会としての正式の推薦を行った。(井上學術賞1件、日本學術振興會育志賞1件、島津奨励賞1件、東レ科学技術研究助成2件、山田科学振興財団研究援助3件)

Ⅸ. 会長候補者選挙(定款第4章第17条に該当する事業、「会長・副会長・理事・監事選考細則」に準拠する)

2021～2022年度の会長候補者を選出する選挙を行った。選挙公示(天文月報113巻10号)に示した候補者募集期間の被推薦者は山本智氏1名だったため、細則第6条により投票は行わず、山本智氏を会長候補者とした。結果は、細則第9条に基づき理事会および代議員に報告すると共に、天文月報113巻(2020)12月号において報告した。

Ⅹ. 学会員名簿の作成(定款第9章60条に該当する事業)

学会員名簿を作成し、会員に配布した。

Ⅺ. 事務所活動(定款第1章第2条)

日本天文学会事務所では、事務長を含む常勤職員3名と5名の非常勤職員により、本会の各事業に関する業務活動を行った。

Ⅻ. その他

COVID-19感染拡大の影響に関連し、経済的に困窮する学生の正会員316名と、研究活動に支障が生じて将来のキャリアパスにも支障が生じかねない状況で困窮する有期雇用契約の職(いわゆるポスドク)に就く正会員48名の、2020年度会費を免除した。

会 員 数

2021年3月31日現在の会員数は以下の通りである。

	正会員(内学生)	準会員	団体会員	賛助会員	合 計
2020年3月31日	2,172(517)	1,093	39	42	3,346
入 会	169(149)	41	1	0	211
退会・除籍等 (うち 除籍)	△187(104) (△33(0))	△95 (△11)	△2 (0)	0 (0)	△284 (△44)
移 籍 (増)	17(10)	12	—	—	29
移 籍 (減)	△12(1)	△17	—	—	△29
正会員へ(学生減)	△(67)	—	—	—	—
2021年3月31日	2,159(504)	1,034	38	42	3,273

(注1: 除籍とは会費未納による資格喪失を指す)

(注2: 移籍とは正会員、準会員との間の移動のことを指す)

(文責: 庶務理事 鈴木建)